

■これまでの経緯

キタバあやたホールとくすのかホールは、それぞれ平成12年と平成16年に建築されており、建築から20年以上が経過し、入浴施設を中心に様々な設備の劣化が著しく、大規模改修の時期が近づいています。市ではアンケートやワークショップなどにより市民意見徴取を行い、施設の今後のあり方について検討を行ってきました。

【市民意見徴取のための取り組み】

- 令和7年4月 利用者向けアンケート及びオンラインアンケートの実施
- 令和7年6月14日 小山田地域福祉センターの未来を考える会（第1回）
- 令和7年7月26日 清見台地域福祉センターの未来を考える会（第1回）
- 令和7年8月9日 小山田地域福祉センターの未来を考える会（第2回）
- 令和7年8月23日 清見台地域福祉センターの未来を考える会（第2回）



アンケート結果は市HPから確認ができます

(<https://www.city.kawachinagano.lg.jp/soshiki/4/113454.html>)

■現在の位置付け

キタバあやたホールとくすのかホールは、「地域福祉センター」と「コミュニティセンター」を併設した施設です。

【地域福祉センターとは】

高齢者の社会参加及び生きがい活動の促進を図るために設置する施設

【コミュニティセンターとは】

市民相互の連帯感及び信頼感を深め、住みよいまちづくりを自主的に展開するコミュニティ活動の促進を図るために設置する施設

■新たな位置付け及びコンセプト

新たに策定される第6次総合計画（基本構想）のビジョンである「人のつながりも、大きな安心に。」「支えて、支えられて、活かし合っ。」の実現に向け、「地域福祉センター」「コミュニティセンター」の位置付けを改め、「つながる拠点（（仮称）地域共生センター）」へのリニューアルを目指します。

【位置付け】

つながりや支え合いの機運を高め、誰もが活躍できる地域づくりの促進を図るために設置する施設

【4つのコンセプト】

- ①多世代が集い、新たな出会いが生まれる場
- ②だれもが安心して自分らしく過ごせる場
- ③小さな支え合いが生まれる場
- ④介護予防や健康維持ができる場

■浴室のあり方について

浴室利用者数の減少や、浴室維持に必要となる経費が多額であること、アンケートや地域ワークショップで施設に多世代共生の居場所を求める声が多かったことなどを踏まえ、両施設における浴室は施設改修のタイミングで廃止し、市内公共施設における浴室機能については市立福祉センター（キタバ錦溪苑）に引き継ぐものとします。

【浴室利用者数の状況】

<キタバあやたホール>

平成20年度25,776人（1日あたり88人）→令和6年度10,770人（1日あたり38人）

<くすのかホール>

平成20年度の27,216人（1日あたり93人）→令和6年度9,907人（1日あたり34人）

【浴室維持に必要となる経費（令和6年度決算ベース）】

<キタバあやたホール>年間約1,500万円（浴室利用一人あたり約1,500円）

<くすのかホール>年間約1,200万円（浴室利用一人あたり約1,200円）

■使用料及び開館時間について

現在は地域福祉センターとして利用する場合とコミュニティセンターとして利用する場合で異なる使用料となっています。（仮称）地域共生センターとしてリニューアルするにあたり、利用者の属性によらない一律の使用料とします。

また、現センターの利用状況も踏まえ、開館時間・開館日の見直しも検討します（例：閉館時間を22時から21時に短縮）。

■今後の取り組みについて

キタバあやたホールについては建築から25年以上経過しており改修に急を要することから、キタバあやたホールの改修を先行して実施するものとします。くすのかホールについては地域で議論を深めた後、改修内容を決定します。なお、新たな施設が「地域住民が主体となった居場所」になるよう、令和8年度以降も地域ワークショップを行うなど、地域住民同士で議論する場を作ります。

（仮称）地域共生センターのイメージ（※イラストは生成AIにより生成）



大人も子どもも、障がいがあってもなくても、みんながごちゃまぜで楽しめる施設へのリニューアルを目指します。

（赤ちゃんスペース、みまもりカフェスペース、キッズスペース、介護予防体操や介護予防プチ講座ができるスペース、eスポーツができるスペース、地域の情報交換ができるスペース等の設置を想定）

キタバあやたホールにおいては、旧浴室スペースを「（仮称）ごちゃまぜホール」へと転換し、オープンスペースを創出する予定です。